

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え理解してもらえるようにしている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に家族に理念について説明し、又、地区の民生委員の方等の訪問時に説明している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域住民の方より、自宅で採れた野菜や花を頂いたり、庭の手入れにも着てくれている。夕涼み会にも参加を呼びかけている。日常的に出掛けることはないが、買い物や散歩等で挨拶を交わしたり、話をしたりしている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会、地域活動への参加はしていないが、地区の行事には出掛けたり、地区民がホームまで神輿を担いで来られ、踊り等披露してくれました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れを行っている。ケア会議に出席し、認知症ケアについて相談を受け、理解や接し方を話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で自己評価の内容を説明し、外部評価の結果を公表している。事業所からの報告と参加メンバーからの質問、意見、要望を受けサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区で行われるケア会議に出席し、入退所について等、情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしている。後見人制度を利用されている方もおり、管理者と後見人との間の話を職員に伝達している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて勉強会を持ち、話し合いの中で何が虐待、どこまで虐待になるのか結果までいかなかったが、有意義な意見が聞かれた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行っている。利用料金の変動があるときは、その都度説明し了解を得ている。重度化や看取りについては説明し、同意を得るようにしている。変化のある時は報告し、話し合いをしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、その時々利用者の不安、意見等をミーティングで話し合っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、月1回の利用料請求の際に暮らしぶりやエピソードや健康状態を知らせている。受診し変化あった時は電話報告を行っている。職員の異動については面会時、夕涼み会、ホーム便りで報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的窓口を文章で明示している。運営推進会議で御家族にも参加していただき、意見を出せるようにしている。訪問時にも伝えている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を月1回行い、意見や提案を聞く機会を設けている。日常的に口頭で申し送りしたり、問い掛けたり、聞き出したりするようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や受診、その時の状況に応じて、職員の配置を考えている。職員の急病や、急な休みの時、夜間の対応時には管理者が対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や職員がやむを得ない場合もあるが、職員より個々の利用者への対応と新しい職員が入った時も利用者にきちんと紹介している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて勉強会、研修会に受講できるよう職員と相談し決めている。毎月の全体会議にて、研修報告をし、全職員が閲覧できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業者と管理者会を月1回、勉強会を開催してサービスの向上を目指している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員数や利用者中心となり休憩が中々取れない現状があります。職員同士で声を掛け合い休憩を取れるような行動をとるようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。年2回健康診断を実施し身体の健康を保つための対応をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所が決まった時点で本人が入所している所へ面接に行き、担当者より本人の身体・精神・生活状態を把握し、本人と会い思いや不安を聴く機会をつくり、本人のおかれている状況を理解しようと努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前、入所時に事務所を見学していただく。家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、入所時に本人や家族の思いを見極め、ほかのサービスもあること等お知らせし、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族や、ホーム近くの親戚の人の協力、本人の希望も入れながら少しずつホームに慣れていただいている。（面会、外出、電話等）	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の皮むき、食器の洗い方など自然と身についている動作（水を大事に使う、手の感覚で食器を洗う）等で見習うことも多い。利用者の言葉に支えられる事も大いにあり支えられていることを実感している。	

宮崎県美郷町北郷区 グループホーム仰星台北郷

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の悩みを聴きいれ、本人の今の気持ちを大切に1日を楽しく過ごしてもらいたいと思っていることを伝える。職員だけでは埋まらない本人の気持ちを家族の協力を得て一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会が困難なご家族には、本人と電話で話していただいたり、本人の思いを手紙・電話で伝えている。外出・外泊を提案したり、行事に家族を誘ったりし、面会時に利用者と一緒に食事を食べていただくこともある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の利用者は知り合いの方が面会に来られ1日と一緒に過ごされたり地区のお店に買い物に行き話をされている。遠くから来られた方には外泊時昔から利用している美容室に出掛け散髪してもらったり、ホームから本人の住んでいた所まで出掛け、夫やお店の人との会話を楽しみました。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ等、同じテーブルでおしゃべりしたり、輪になりボール遊びをしたり、お互いを理解し、思いやる心が見られる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されている方には面会に行ったり、ご主人はホームの草取り、野菜を頂いたり、夕涼み会に参加していただいている。他のグループホームに移られた方も夕涼み会などを利用し本人と家族と話をし関係を継続している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、言葉・表情・行動からその真意を推し測ったりする。日々の行動や表情等を家族に伝え、本人の思いが少しでも分かるよう協力していただくこともある。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に生活歴や馴染みの暮らし方を聞いたり、家族の面会時に家族の方より話されることもある。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者1人1人の生活リズムを把握している。声掛け、働き掛ける事により、出来ないと思われている事が自主的に行えるようになる。出来なくなったことより、何か出来ることがあるのでは、に注目しその人全体の把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご家族の方には面会時や電話で意向を伺い作成している。アセスメントを含め職員全員で意見交換、カンファレンスを行っている。本人の意向がつかめないかたは、色々な角度から見て何が必要かを検討している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が記録する。個別記録表で介護計画の遂行状況を知り月1回の会議の中でカンファレンスを行い見直している。期間が終了する前に家族に報告している。入院等により状態が変化した際は、終了する前でも必要な関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録表で食事、水分、排泄等、身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。全ての職員が申し送りで確認できており情報を共有し個別記録を基に介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院はホームが行っており、必要に応じ家族の協力をお願いすることもある。入院した場合、家族への報告、入院時の様子も家族に報告している。退院に向けての情報も共有している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員に地区の民生委員、消防団の方も入っていただいております、防災訓練時に近隣の方も参加されたり、社協へボランティアの要請をし窓拭きに来られたり、地区民の方より庭掃除も自主的に行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業所の支援は受けていないが、地区内の美容室の方が来られ散髪を行ってもらったり、美容室まで車で送迎しパーマ、髪染めをして頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度が必要と思われる利用者に対し地域包括支援センターと協働し利用できるようになる。運営推進委員でもあり、ホームの実情も理解されている。		

宮崎県美郷町北郷区 グループホーム仰星台北郷

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。通院はホームがサービスで行っているが、ご家族にかかりつけ医より説明がある時は付き添っていただいている。定期以外に受診したときは受診結果を電話・文書にて報告している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が精神科医のため相談可能であり、指示・助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいないときは介護職員の記録を基に連携を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供書を医療機関に提供し他の入居者受診時に様子を見に行ったり管理者が様子を見に行ったときは個別記録表に記入している。管理者は家族・医師との情報交換に努め、退院の見通しについて話し合い、ホームの受け入れ態勢を作っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については入所時に同意書を得てホームの方針も伝えている。運営推進会議で家族には出来る事、出来ない事を伝え資料を手渡す。	○	ホームでの看取りは行われない。終末期ケアについての研修に3名受講している。今後、順次研修に参加し全員で共有化していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した利用者、ご家族の方には今後どうしたいかを尋ね、かかりつけ医、運営者、職員と相談し支援に取り組んでいる。状態に変化があるごとに家族の気持ちや本人の思いに注意を払い支援につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	17年度に1回同系列のグループホームに入所されたが、それ以降はない。今後そういうケースの方があった場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡し、必要な情報を提供します。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	急に立ち上がられ、歩き始めたときは、側によって、そっとトイレかどうか尋ね、誘導したり、服を汚された時も、さりげない言葉掛けをして居室やトイレに誘導し更衣している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて言葉掛けをしている。意思表示が困難な方には表情や態度で判断し、本人の意思を確かめながら支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で行える方は、着替えは基本的に本人の意向で決めている。起床時、入浴後には鏡の前で整容の声掛けを行っている。希望する理容所・美容室に行っている。		

宮崎県美郷町北郷区 グループホーム仰星台北郷

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材洗い、皮むき、食器洗い、拭き方、味見、料理（一品）等、利用者と一緒に準備し食事、片づけをしている。出来るだけ分担し、個々の好みを聞いたり、メニューを相談し決めることもある。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	パン屋さんが販売に来られたときは、好みの物を選んで買われたり、外出時に行きつけの店で飴を買われたりしている。おやつは自分で選んだり咀嚼、嚥下力により替える事もある。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	安易にオムツは使用せず、トイレで排泄できるよう夜間も無理のない程度に誘導している。本人が発した言葉や行動を見ながらトイレ誘導するときもある。痒みがある人はパットをしている時間帯を出来るだけ減らせるよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	仲の良い方は一緒に入られたり、ぬるいお湯を希望される時は調整したり、時間も個人のペースで長い時には確認を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のその時の状態や、夜間帯の睡眠の状態を把握し、声掛け、本人の希望の所で休息したり、眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割（仕事）があり、自主的に少しずつ行えるようになっている。利用者より「何か仕事はないとね」と声を掛けられることもある。縫い物が得意な人、皮むきが得意な人、その人が出来そうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。		

宮崎県美郷町北郷区 グループホーム仰星台北郷

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	家族の協力を得て少量のお金を持っている人もい る。ご家族からお預かりしているお金をドライブ や買い物、パン屋さん等が来られたときに自分で 払っていただけるようお金を手渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	自宅が遠く帰れない方は家族の希望を取り入れ、 ホームで迎えにいたりし、年1・2回の外泊を 行っている。本人が家族に電話し自宅に外泊され たり、ホームからご主人の入所されているホーム まで外出の支援をすることもある。	○	近隣への散歩が職員数（時間帯もある）や利用者 の重度化で年々減ってきている。地域のふれあい も同様です。地域のボランティアへの呼びかけや 月1回でも定期的に散歩に出れる時間帯を作る 等、調整し取組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	年に3回ほどご家族と他利用者が出掛けられる機 会を作り支援している。個別的には生家、自宅に 帰りたい希望の利用者もありますが、家族の意向 （家族の了解を得て職員と自宅へ外出する）、本 人の身体状態で出来ないこともある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	電話は希望するときに自由に電話をしたり、うま くかけれないときは、職員が取り次いでいる。本 人の体調を気にされる方にはホームより電話をか け、本人と話をさせていただくこともある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、家族・本人の希望で ホールや居室で過ごして頂き、ご家族と一緒に食 事が出来るよう声掛けしている。本人の状態や外 出時、日常の写真を見ていただき、必要な写真は 持ち帰ってもらっています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体高速に関する勉強会を ホーム内で実施し職員の共有認識を図っている。		

宮崎県美郷町北郷区 グループホーム仰星台北郷

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関にも鍵を掛けないケアに取り組んでいる。職員が一人の時、危険と思われた時、一時的にかける時もあるが危険が回避できたら鍵ははずす。職員が2名の時是一緒に散歩に出掛けたり、行動を見守っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は全体が見回せるホームで記録などの事務作業を行いながら、さりげなく利用者の状況を把握するように努めている。夜間帯は巡回時に様子を確認し、動きがあり見守りの必要な利用者はホールの近くの部屋ですぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	決められた場所に保管し、必要なときに出し、管理できない時間帯には保管している。縫い物を希望される時にはさりげなく本人の行動を見守り、片づけを一緒にしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を作成し、事故の原因や状況を話し合い、再発防止に努めている。誤嚥のリスクの高い利用者の食事支援や服薬の方法等、本人の状態（飲み込み、嚥下）を見ながら工夫している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修で心配蘇生法にいった職員に伝達して全員で行っている。順次研修に行っている。	○	新任職員もおおり、ケア会議時に行ったが定期的に行っていないので行政関係者や消防署などの協力を得て、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者と共に役場の消防団、黒木電気消防の方と避難・誘導・消化訓練を行っている。地区の消防団の方が運営推進委員であり協力を得られるよう働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	受診時の結果や日常の暮らしぶりを家族に文章や面会時にお知らせし、事故の際には原因や職員で話し合った対応策などを家族に説明している。起こりえるリスクについて予想されることがわかる事については説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝行っている起床時のバイタルチェックや普段と違った様子が見られたら、他の職員に伝達し様子を記録している。異変に気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診した際は医療記録に処方箋をとじておきいつでもチェックできるようにしている。薬の処方に変更があった時は申し送りノートに記録し、職員全員で共有している。血圧の変動や表情の変化があった際は再度処方箋を確認し報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食品チェック表により、野菜の摂取量に気をつけ、おやつ、食事に繊維質の多い食材を心がけている。動きの少ない方には少しでも動かしていただくよう働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きやうがいの声掛け、準備、見守り、順序の説明をし出来るだけ自分で行っていただく。むせる時はハミングッドなどをもちいている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況を毎日チェックし記録している。食事の飲み込みが悪かったり、むせたりする時は食事形態を変更したりトロミをつけ調整する。食事・水分量が少ない時は本人の好物を摂っていたいっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者・職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策を考慮し、ブリーチでホーム内の手すり・ソファ・居室・トイレ等の取っ手を毎日拭き掃除している。感染症マニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾などは毎日漂白し、日光消毒も行う。調理器具、流し台は毎日洗剤を使って洗い清潔にしている。食材は新鮮で安全なものを選んでいく。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	段差をなくし、外門まで手すりがついている。玄関はインターホンを設置、玄関先にプランターを置いたりして季節感を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や玄関等に紙で季節感のある飾りや絵が貼ってある。天窓があり自然の光が入り和らいだ雰囲気がある。ホールには季節の花を生けたり、中庭の木々や草花で季節感を感じていただける。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳の部屋があり、休まれたり、洗濯物をたたまれたり、新聞を読まれたりしている。中庭の見える場所でソファに座り中庭を見られたり、会話、居眠りをされている。		

宮崎県美郷町北郷区 グループホーム仰星台北郷

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入所時や必要と思われた時、家族に伝え持参して もらう場合もある。子供や家族がいない方は本人 が使用している服などを壁に掛けたりの工夫をし ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	起床後、居室の戸を開け、外気が入るよう窓を開 けたり、カーテンで温度を調整している。温度調 整は温度計と利用者の様子を見ながら外気温と大 きな差がないよう配慮している。扇風機も併用し ている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	室内の移動には手すりが設置してあり、歩行する 際利用者が使用している。洗濯物干しは目の届く 所で干していただくときは室内にある物干し台に 高さを調整したり、腰の痛みを訴える人には椅子 に座って出来ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの戸にトイレが分かるように目印や大きな 字で書いてある。身体面や認知の面を考慮して同 じトイレに誘導したり、トイレに近い居室を提供 している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭に椅子を設置しており、好きなときに出て季 節感のある木々を眺めることが出来る。建物の周 りには砂利道、段差があり、回られる時には見守 り、付き添っている。日差しのやわらかい時間帯 に日光浴、ボール遊びをする。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

山間に囲まれ季節感ある風景がホームの中庭から外の景色へと広がっている。中庭の木々・花・梅の木等（利用者、職員とで収穫し梅干作りをする）を時々見ながら利用者と接する幸福があります。ホーム内の庭の手入れ、窓拭き、草取り等、地区の方がボランティアで環境を整えてくれています。家族の方、近隣の方の野菜の差し入れもあり、時には家族と一緒に食事をする機会を持っています。昔取った杵柄の得意なことを一緒にしたり、その人らしさが出せるよう、その方の立場でものを考え、挨拶と笑顔を忘れないよう取り組んでいます。お互い支え、支えられたりの関係が続けられるよう日常の生活を大切にしています。又、研修に参加し質の向上を目指します。